

「栄典に関する有識者」会合 議事要旨

- ◆開催日時：平成30年6月11日（月） 17：21～17：56
- ◆開催場所：総理大臣官邸4階大会議室
- ◆出席者：漆間 巖、熊倉純子、小宮山 宏、高橋はるみ、竹内行夫、萩原なつ子、牧原 出、山下 徹、渡 文明の各有識者
菅内閣官房長官、山下大臣政務官、杉田内閣官房副長官、河内事務次官、幸田内閣府審議官、大塚賞勲局長

◆菅内閣官房長官挨拶

お忙しい中、御出席をいただきまして、ありがとうございます。

社会経済情勢が大きく変わってきている中で、栄典授与のあり方もそれに対応したものにする必要があることから、一昨年、山下座長をはじめ有識者の皆様に見直しのための御検討をいただきました。頂戴した御提言に基づき、政府として「栄典授与の中期重点方針」を閣議了解し、現在、同方針にのっとり対応を進めているところであります。

その結果として、平成29年春の叙勲以降、受章者における民の割合が官の割合を上回るなど、一定の進捗が見られているところであります。

より適切な栄典制度の運用のため、本日はぜひ皆様から忌憚のない御意見を頂戴し、今後に生かしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

◆議事概要：

○ 栄典授与の状況等に関する事務局説明

資料1に基づき賞勲局長より説明。

○ 有識者からの意見等

各有識者から意見を聴取。主な意見は以下のとおり。

<春秋叙勲>

- ・海外の国際機関、NPO、企業等で活躍している方（特に女性）が増えているように思われる。これらの我が国のサポーターとなっている方々に栄典を授与するよう努めるべき。
- ・アイヌ文化の継承・振興のため、貴重なアイヌ文化の伝承者等が積極的に評価されるような制度を検討できないか。
- ・今後、叙勲の候補者となりうる世代の人数の増加が見込まれる中、時代に合わせて受章者数を柔軟に増加させてほしい。
- ・中期重点方針に沿っていろいろな取組が行われてきており、順次その成果が出てきていることを評価。
- ・オリンピック・パラリンピックで活躍した選手の受章は、栄典について若い人達に関心を持ってもらえるきっかけになったのではないか。

- ・女性の受章者数の着実な増加は評価できる。別枠推薦の数も増えているが絶対数はまだ少ないことから、さらにその活用を進めていくべき。
- ・自治会は少子高齢化、地域活性化、防災において重要な役割を果たしていると思われることなどから、引き続き重点的に取組むべき。
- ・自治会、女性、人目に付きにくい分野といった重点分野のさらなる受章者の増加を期待。

<外国人叙勲>

- ・外国人叙勲は、我が国が、外国人受章者の努力や貢献を高く評価し、感謝の気持ちを表すという点で、非常に重要なもの。引続き候補者の分野と人数を増やすため、外務省の在外公館や関係各省による努力を一層望む。また、民間の外国人で我が国との関係増進に功績のあった方々について、広く候補者を推薦するべき。
- ・日本国内で活躍している在日外国人等、様々な情報を持っている各府省に対し更に働きかけを行うことにより、新たな分野での受章が期待できるのではないか。
- ・自治体等が行う国際交流だけでなく、日本国内で草の根交流を行っている外国人を栄典の候補者とすることができれば、対象分野が広がるのではないか。
- ・在日外国人の受章者数のさらなる増加を期待。特に、文化交流で功績のあった方を日英協会などの交流団体から推薦を募って増やしていけないか。文化勲章を外国人にも拡げていけないか。

<一般推薦>

- ・オリンピック・パラリンピックで活躍した選手の受章をきっかけに多くの方が栄典に関心を持ってもらうことにより、今後の一般推薦につながることを期待。

<地域総合功労>

- ・候補者に関する情報を十分に把握しているのは市町村ではないかと思われることから、都道府県知事からの直接推薦の内容は、市町村の意見が十分に反映されたものとなるようにすべき。
- ・都道府県知事からの直接推薦については前進であり、評価。数値目標を設定することで、取組の効果がよりあがるのではないか。

<その他>

- ・NPO法人が増加するとともに活動実績を挙げてきていることから、市町村等が把握している情報の吸い上げが今後ますます必要になってくる

のではないか。

- ・文化関係の受章者を増やす方策として、地域のアマチュア芸術団体の活動に長年携わり、地域文化振興に貢献された方等を都道府県知事からの直接推薦等の対象としてはどうか。
- ・寄附行為と紺綬褒章の結びつきについて、あまり認知されていないのではないか。
- ・パラリンピックで活躍した金メダリスト以外の選手に対しても褒章を授与できないか。
- ・推薦資料作成時の負担軽減を図るため、電子化等による事務の効率化を進めるべき。
- ・受章者数の増減だけでなく、定性的な評価の取組状況についても明らかにするべき。
- ・スポーツや文化芸術（囲碁将棋や芸能も含めて）で活躍する若い世代を中心に、叙勲の対象年齢を見直し、漸次廃止等について検討できないか。

○ 山下大臣政務官発言

本日は、栄典授与のあり方の見直し後の状況について、幅広い観点から貴重な御意見をいただき感謝。

本日いただいた御意見も踏まえながら、日本国内で活躍されている外国の方を含め、外国人に対する叙勲、地域での総合的な功労に対する評価、叙勲などをはじめ、中期重点方針にのっとりさらに取り組みを強化し、一層の成果を上げてまいりたい。

引き続き、今後ともより適切な栄典制度の運用に向けて、より一層の御協力をお願いしたい。

以 上